

## ロータリーワンポイント情報

## 小松亮次アカデミー部門理事

R I 会長代理のお世話をした時の話、過去に二人のエイドをしました。

1996年度から97年度は、坂本ガバナーの年度であり、エイドの要請を受けましたが、当時は経験もなく戸惑った部分もありましたが、アドバイスや助言を頂き何とか大役を終わらす事が出来ました。その時のR I 会長代理は山梨甲府の岡島氏でありました。

仕事は自動車関係の同業という事で、話の中で参考になることがいっぱいありました。 昨年度足立ガバナーからエイド要請があり、以前の経験もあり喜んでお受け致しました。

山形の藤川R I 会長代理でありました。延べ日数で4日間お世話をさせて頂きました。

色々な場面で話をする機会も多く、私の出身が秋田ということで非常に身近に感じて頂き、大変ラッキーでありました。素晴らしい人であるのは勿論、奥様が素敵であり気さくな方であり、うちの家内もその様なことで助けられたのではないかと思います。

ロータリーの友委員を務めたことで、多くのPDGから声を掛けられなど、知り合いがふえましたし、沢山のアドバイスや色々と勉強させていただきました。

有望視されております足立PDGには、更に人脈や活躍の場を広げていただいて、将来是非RI 理事を務めて頂きたいと切望いたします。

## 「坂本新世代育成基金」誕生の頃の話

## 田村憲一郎ロータリー研修委員長

13年前坂本ガバナー年度に、クラブは松田会長、私田村が幹事をやらせていただきました。地区としてキャビネットが組まれておりましたが、クラブの活動や人事に必要ということで中嶋会員を副会長として就いてもらいました。

当時会員で清河さんがおられて、プログラム委員長として手腕を発揮して頂きながら、坂本新世代育成基金の立ち上げに深く関わり、携わって大きく貢献をいただきました。

当時のジアイR I 会長が、若者の将来をとテーマを掲げており、坂本ガバナーがローターアクトの例会で講話をしたことから、分区の会長幹事会で検討し、IMにおいて「新世代を語る21世紀の釧路」の会合で、およそ270名のメンバーを集めまして、立派に終えたという事が、基金設立のきっかけでありました。多くの事業をこなしていく中から、それぞれの係わり合いや、発想が生まれてきた事で基金の形が出来てきました。

幹事という立場だけで何もしていないのですが、基金設立が出来た事は大きな喜びであります。

ここ何年もロータリーの話をしておりませんので、勝手に悪いことと、思うように資料を集められずに、突っ込んだ話が出来るのか不安であります。

とりあえず要望のあった事について申し上げます。まず認証ポイントについての要望であり、かつては認証据え置きクレジットという名前から変わったものです。

まず1000ドルを寄付しますとポール・ハリス・フェローになります。それに更に200ドル足して1200ドルになりますと、認証ポイントが200ポイントつきます。

更に累計が2000ドルになりますと、マルチ・ポール・ハリス・フェローとなり、認証ポイント1000となりますが、本人が利用する事は出来ません、RIの方で決められております。但し同じクラブの会員の方を指名してP・H・Fになることは可能です。

例として、会員が500ドル拠出して認証ポイント500ドルを使い、1000ドルとしてP・H・Fになれる訳であります。

満額出した人、認証ポイントを使った人では不公平ではないのかという議論が出来るが、ポイントを使った人は後日クラブに対して、充当寄付として一括または部分寄付をするという柔軟なシステムになっております。不公平感もなくなり、沢山の人がP・H・Fになって頂くメリットもあります、充当寄付をすることで北クラブの活動、新世代育成に支援をする、一石二鳥のメリットもあります。これが認証ポイントの仕組みであります。

田村さんからも出ておりましたが、坂本ガバナー年度の新世代会議の席上でガバナーから、新世代の人達に支援をしたいという言葉がきっかけとなり、設立されたところであります。基金の原資としては、ニコニコから毎年30万円、篤志寄付30万円、認証ポイントから20万円の計80万円を毎年の目標にして作られました。

団体に対する支援は、今年から上限3団体、30万円として活動資金支援をしていきます。

これが坂本新世代育成基金の仕組みであります。

お手元の資料にあります様に、会員別ポイント利用状況、これから利用して頂く為の参考になればと思います。ロータリークラブはボランティア団体でありますので、次代を担う青少年のために力になれる奉仕を考えてみて下さい。また担当委員会の人からの声がけには、積極的にご協力をお願いいたします。

RIも新世代育成には、強力なプログラムを組んで実施しております。物質面の奉仕はあまり考えていなかったが、最近是非常に活発に色々な分野、色々な支援活動を行っています。特に新世代に関わる常設のプログラムと致しましては、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、ライラセミナー、国際青少年交換などがあります。

シェアシステムについて、毎年財団に年次寄付を致しますと、その総額が3年間保管され、3年後に地区に還元されるシステム、かつては地方の活動資金に60%、RIに40%でしたが、今は50%・50%に変わり現在はそれで推移しております。

3年経って地区に戻ったものは活動資金として流用出来る制度、システムであります。

養護の仕組みなどを解説し話をいただきました。